



戸田中だより 『紫雲』

学校教育目標

＜自主協調＞

生徒が主語になる自主

全員が納得解を求める協調

令和6年1月9日 第9号

辰年を「飛躍の年」「変革の年」に

校長 山田 一文

まずは、令和6年能登半島地震で被災された皆様、関係の御家族の皆様にお見舞い申し上げます。東日本大震災の復興の困難さを思うと、目の前の問題解決はもちろんのことですが、家族や仲間が力を合わせ、未来への希望を抱き続けることが大切なことと思います。私も応援する気持ちを持ち続けたいと思います。そして、一日でも早く平穏な日々が訪れることを強く願います。

さて、2学期の終業式の式辞と重なるところがありますが、今年の「辰年」にちなんで、「龍」にも負けない戸田中学校の決意を表明したいと思います。「龍」は力強さや飛躍を象徴する存在として知られ、私が度々使っている生成AIによると「辰年」は「飛躍の年」「変革の年」なのだそうです。

「飛躍の年」は、これまでの努力が実を結び、大きく飛躍する可能性が高い年、特に仕事や学業において、大きな成果を上げられるチャンスのある年ということです。これまで、戸田中学校では、「自ら人生を切り拓く生徒」を育成するという最上位目標のもとで、「対話的・協働的な学びが、非認知能力を高め学力を伸ばす」(研究主題)について研究を重ねてきました。PBSやPBLの取組も、ICT機器の活用も、学習形態の工夫も、新しい学習方法の導入も、すべて「対話的・協働的な学び」を実現させるための挑戦です。また、研究の基盤として教員同士、教員と生徒、生徒同士それぞれの「対話」の時間を増やし、各自がもつ見方・考え方を更新することにも試みています。自由進度学習への挑戦もまだ一部ですが始まりました。このような「試み」や「挑戦」からさらに「対話」が生まれ、子供観や授業観についても考える機会が増えてきました。辰年中に行う研究発表では、学校研究の大きな成果が出せるよう研究を進めてまいります。戸田中学校の飛躍に御期待ください。

「変革の年」は、大きな変化が起こる年、社会や経済、あるいは自分自身の生活環境などに大きな変化が起こる可能性がある年ということです。これらの変化を受け入れることで、より良い未来へと導かれることが期待できます。戸田中学校では、周知のとおりですが、本年度から学校教育目標が「自主協調」に変わりました。これまでの「凡事徹底」「凡事一流」を基盤として、子供が主語になる「自主」と全員で納得解を求めていく「協調」を大切にして、これからの予測困難な社会でも活躍できる生徒の育成を期待するものです。最上位目標の「自ら人生を切り拓く生徒」にも通ずるものがある学校教育目標です。令和6年は学校教育目標の周知から具体的な変革の年ととらえています。これまで中学校文化として当たり前と思っていることを疑うことから始まり、小学校から引き継がれ、上級学校に引き継いでいく中学校としての位置付けと役割の考察から、戸田中学校らしい変革を目指したいと思います。文化や思い込みを超えた円滑な変革により、Well-beingの実現を目指したいと思います。

生徒の皆さん、保護者の皆様、地域の皆様、戸田中学校に関わる全ての皆様、今年もよろしく願いいたします。

